

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス中島新町 1F		
所在地	愛知県名古屋市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	平成25年11月4日	評価結果市町村受理日	平成26年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日を明るく楽しく過ごして頂きたい。自宅で生活しているように過ごして頂きたい。そのために必要以上の束縛を行わず、できるだけ自由に過ごして頂こうと考えています。特に居室内は、ご利用者様が自由に過ごせる空間であるため、できるだけ制限を設けず、さりげない声がかげを行い、安全に配慮しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者は、それぞれのペースで行事に参加しながら日々過ごしている。職員は理念に沿った介護の実践に努めており、特に「元氣よく」過ごせるよう笑顔での対応を心がけている。管理者は、リーダー研修での内容を踏まえ、職員と利用者とのコミュニケーションで本心を探る工夫を試みた。その結果、会話の方法で本人を理解する力が養われたり、より利用者に接する機会が増え職員の意識改革につながった。また、各種研修に参加後、作成した報告書を資料とともに回覧し、情報共有にも努めている。利用者の体力低下が進む中、安全を確保しながら、温もりのある数々の手作り品にあふれた中で、最後まで自分らしく楽しく過ごせるホームを目指していきたいと考えている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

1F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全に、家庭での生活と同じように暮らせるよう、理念を重視し実践につなげるよう対応している	法人の理念をホームの理念とし、日々のケアや行事計画立案の際、常に振り返り、内容や方法を考える原点としている。管理者は今後職員と話し合っ、独自の理念を作成していきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の催しに参加し、買い物散歩などに出かけ、地域の人達と挨拶を交わしたり話したりしている	町内のお祭りに参加したり、廃品回収に協力している。フラダンスや大正琴の地域ボランティアの定期的訪問があり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材教育に貢献 実習生の受け入れも積極的にやっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表、いきいき支援センターの方、利用者代表の参加で、施設状況を説明したり、地域の取り組みなど話し合っている	2か月毎に年6回開催し、いきいき支援センター職員や利用者も参加している。ホームの状況や行事内容を報告し、地域情報を民生委員から得たりしている。その都度意見や提案が出され、避難訓練については具体的な項目の確認や問題点が検討された。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であることから、より多くの人が関わられるよう働きかけをされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加して下さっている、地域代表の方を通して連絡を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、窓は施錠していない さりげない見守りで安全で自由な暮らしを支援している	毎年、外部研修受講者がホーム内で勉強会を開き、身体拘束の内容は理解はされており、現在拘束はない。帰宅願望等で外へ出て行く場合は、その気配を察し、後ろからさりげなく見守り、利用者の気持ちに沿った支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で話し合ったり、研修に参加して学ぶ機会を持つよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はしっかり時間を取り、住運な説明を行い、疑問にはきちんと答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話などで、意見や要望を聞いている。それを会議などで話し合い反映させている	面会時には、利用者の状態や暮らしぶりを伝え、意見や要望を話しやすい環境作りに努めている。出された意見で全体に関わることは職員と話し合い、薬の塗り方を変更する等、出来る限り要望に添えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あえて機械は設けていないが、会議で出される意見は反映させている	月1回の会議で意見を出しあい、参加できない場合は事前に伝えることで職員が一丸となって、より良いケアに向け知恵を出し合っている。結果は申し送りやフロア毎に印刷物を作成、回覧することで統一化を図っている。現在個人面談を実施中でより個々の話にも耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナスがないので、向上心を維持するには寂しいものがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は多く受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり交流はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の意見要望に、どのように対応するか話し合い、安心して頂ける信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安などを理解し、できる限る添えるように努めている。面会時など、より多く会話ができるよう心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の思いに、柔軟な対応を行い、信頼を築きながら必要なサービスを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩、レクリエーションなど一緒医行い、会話などで本人の思い不安をしり、協力しながら和やかに過ごせる努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子などお話し、家族の思いを聞き、絆を大切に、家族と同じ思いで支援している事を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に本人の思いを伝え、連れて行ってもらったり、電話をして面会に来て頂いたり、友人が遊びに来てくれたりしている	友人が遊びに来たり、行きつけの美容院へ家族対応で出かける方もある。ホーム入居後、車いすにも対応してもらえる喫茶店やファミリーレストランが馴染みの店となり、喫茶店ツアーを企画し、楽しみが途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったりする。散歩やレクリエーションを一緒に行い、皆で話ができるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努力している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で把握に努めている。個人の買い物や食事の好き嫌いなどの要望にも応じている	利用者の生活歴を踏まえて一人ひとりの希望や意向の把握をしている。意思疎通が困難な場合は家族等関係者の協力やしぐさ、表情、行動などから理解をして希望に添うように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴、面接時の様子、ライフスタイル記録、医師からのサマリーなどで理解している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを理解している。申し送りや、様子観察で、心身状態の変化に気を付けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングやカンファレンスを行い意見交換をして、ケアのやり方を統一し、行っている	計画の見直しは3か月毎とし、モニタリングは毎月行ない、本人や家族の意見の反映に努め、詳細に記録している。利用者に変化が生じた時は現状に即した計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録をしているが、活かしきれないところがある。朝、夕の申し送りなどで話し合い、見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の受診、外出、訪問、買い物、宿泊など、個別の対応を臨機応変に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徘徊に関する情報交換や、各種ボランティアの慰問で楽しませてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意のもと、掛かりつけ医の定期受診を受けている。本人、家族の希望する受診や通院にも対応している	事業所の協力医と訪問看護の往診を隔週に受けている。訪問歯科は月に一度、他に眼科、マッサージの訪問診療を受けている。馴染みの医療機関へ家族が行けない時は職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合、紹介状を掛かりつけ医に出していただく、施設での情報は管理者がサマリーを作成して対応している。退院時も同様である		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異変があった場合は、病院へ搬送する。老衰によるものは、医師と家族、職員が連携して取り組んでいきたい	契約時に終末期に向けた意思確認書を作成し、その後も随時確認を行なっている。家族等の意向で看取りを希望する利用者には、話し合いを密にして職員全員で情報の共有をし、意向に添った支援をする事にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで対応できるようにしてある。講習も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をしている	夏には地震災害を想定し避難訓練をし、11月には洗濯室で漏電事故の想定で避難訓練をした。水害時想定は全員が2階へ誘導・避難訓練を実施した。消防署の指導で消火器の使い方も研修した。	事業所の訓練に地域住民への参加呼びかけと、繰り返し訓練を実施する事で意識の向上、共有を目指されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格に合った対応とケアに心掛けています。 ドアをノックして返事を聞いてから入室している	入室時にはドアをノックし、返事後に入るようにしている。特に、トイレ誘導時や浴室の対応はドアを閉めるなど、職員全員が羞恥心、プライバシーに配慮した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれに合った声掛けをし、押しつけはしない。 本人が考えるまで待つてあげている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にしている。 その日の本人の気持ちを尊重し、個別性ある支援をしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備には、どの服を着たいか聞いて用意する。 季節に合ったもの、その人らしさを保てるよう支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒には行ってないが、食事の内容は季節を取り入れ、マンネリ化しないようにし、一緒に楽しく食事をしている	週に2回、八百屋から食材を購入して、利用者の希望や季節感を大切にして栄養バランスの良い献立を決めている。誕生日会は当人の好みの物を出してお祝いしている。毎朝の配膳や片付けは一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量はその都度記入している。 一人ひとりの状態を把握して、盛り付けの量も工夫している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて行っている。自分でできない方はスタッフが介助している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えがなくても声掛けで誘導している。自尊心に配慮し、身体機能に応じた介助をしている	排泄チェック表を作り、排泄パターンを把握して声掛け、誘導を行ない、トイレでの排泄を心がけている。失敗してしまった時、職員はさりげない対応で支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、レクリエーションで身体を動かす。お腹を温める、乳酸飲料や繊維食を取り入れたり、排泄パターンを知るなどしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっている。入浴時は一対一で本音を聞いたり、その方のペースに合った入浴を楽しんでいただいている	日曜日を除き週に3回午後に入浴をしている。個別のシャンプー・リンス・洗体タオルを用意し、脱衣室は冷暖房を入れ適温管理が出来ている。入浴を好まない利用者には人を変えたり時間を変えて促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活のペースで安眠できるようにしている。夜眠れるよう、日中の生活に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については説明を受けている。服用時は本人に手渡しし、きちんと服用できているか見届ける		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しと畳み、食前の配膳など、本人の希望や状態によりお願いできそうな仕事を頼んでいる。遠足、喫茶ツアー、外出行事など行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば外出する	天候や利用者の希望に合わせて、近くの公園へ散歩に行き、定期的買い物や喫茶店、また同じ法人間で運動会、秋祭りなどのイベントがあり、利用者一人ひとりの体調に配慮した外出支援に取り組んでいる。近くの神社への初詣は恒例化している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解できる人は所持している。 月2回の買い物の時、自分の買いたい物を買っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも希望があれば対応している。手紙も切手を買って貼り投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に気を付けている。 廊下やリビングには入居者様の作品が飾っており、使いやすい配置にも気を使っている	明るく日差しがあふれるリビングではソファでテレビを観たり職員とお喋りをする姿が見られ、ゆったりと寛げる空間になっている。壁や天井にはクラブ活動の書道・川柳・折り紙などの展示や季節感ある手作り品・カレンダー、献立表が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席や、ソファなどで、ゆったりくつろぐ事ができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や家具、衣類を持ち込まれ、居心地の良い安心した生活をされている	使い慣れたベッド、筆筒、鏡台を使用したり、絨毯を敷き炬燵・座布団で自分好みの落ち着いた生活をしている。ベランダに季節の花や植物の鉢植えがあり鑑賞や手入れをして過ごす場もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせた環境整備に努め、物の配置に配慮している		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371001674
事業所名	フレンズハウス中島新町

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	ホームとして町内会に働き掛けはしているものの地域情報を得たり、運営推進会議への参加協力は難しい状況である。大正琴やフラダンス、マジックのボランティアの訪問や、実習生や専門学校生の受け入れを行っている。散歩や地域行事への参加で地域の方との交流に努めたり、ホーム行事へのお誘い、認知症サポート講座を開催する等地域住民がホームへ足を運び、存在や実情を知ってもらう取組の検討に期待したい。	×
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	2か月毎に定期的開催されている。メンバーに法人内近隣グループホーム関係者や利用者は入っているが、家族や職員の参加はない。ホームの状況や行事報告をし、地域の情報は民生委員から得ている。避難訓練についての問題点などについて、検討している。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	中川区の区民福祉部福祉課へは書類提出で、保護係へは生活保護関連で足を運んでいる。今後運営推進会議議事録やホームだよりを届け、ホームの状況や利用者の暮らしぶりを伝え、更に連携を深めたいと考えている。市が開催するキャリアアップ研修や介護関係の研修には積極的に管理者や職員が参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	家族は面会時に個々に意見や要望を伝えている。出された意見は会議で検討してサービスに反映し、内容によっては家族に報告している。ホームだよりが年2回発行のため、1か月毎の行事予定表発行を始めたところであり、家族が行事に参加し、家族間の交流が深まり、家族会設置へとつなげたいと考えている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○	×	×	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況(外部評価)が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認(記録、写真等)できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的(年2回以上)に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的(年2回以上)に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。